HITACHI
Inspire the Next

Hitachi Systems Security Journal

VOL.28

株式会社 日立システムズ

Human * IT

Hitachi Systems security Jounral VOL.28

TABLE OF CONTENTS

●はじめに

本文書は、株式会社日立システムズ の公開資料です。バックナンバーは以下の Web サイトで確認できます。
https://www.hitachi-systems.com/report/specialist/index.html

●ご利用条件

本文書内の文章等すべての情報掲載に当たりまして、株式会社日立システムズ（以下、「当社」といいます。）といたしましても細心の注意を払っておりますが、その内容に誤りや欠陥があった場合にも、いかなる保証もするものではありません。本文書をご利用いただいたことにより生じた損害につきましても、当社は一切責任を負いかねます。
本文書に記載した会社名・製品名は各社の商標または登録商標です。
本文書に掲載されている情報は、掲載した時点のものです。掲載した時点以降に変更される場合もありますので、あらかじめご了承ください。
本文書の一部または全部を著作権法が定める範囲を超えて複製・転載することを禁じます。

主催者に聞く

CODE BLUE 2018の見所と楽しみ方

取材・文・撮影＝斉藤健一

CODE BLUE 2018 が開催

本年、10 月 29 日～ 11 月 2 日にかけ東京・新宿のベルサール新宿グランドにて CODE BLUE 2018 が開催される。情報セキュリティに特化した国際会議であり、国内外を問わずトップクラスの専門家が一堂に会する。2014 年 2 月に第 1 回が開催され、以降回を重ねるごとに着実に規模を拡大。昨年はついに参加者が 1000 名を超えたといい、情報共有・交流の場として欠くことのできないイベントとなった。

そして第 6 回目を迎える今回はさまざまな試みにも積極的に挑戦し、さらなる規模拡大をめざすという。そこで株式会社 BLUE の篠田佳奈氏に CODE BLUE 2018 の見所について話を伺うことにした。

株式会社 BLUE の篠田佳奈氏

セキュリティ界屈指の有名人による基調講演

オープニングの基調講演はエフセキュアのミッコ・ヒッポネン氏が務める。ヒッポネン氏といえば、NHK E テレで「スーパープレゼンテーション」という名でも放映される TED カンファレンスで講演を行なったり、サイバーセキュリティをテーマとした各国 TV のドキュメンタリー番組に出演したりするなど、業界内にとどまらず一般へも大きな影響力を持つ存在だ。

基調講演のタイトルは「Cyber Arms Race」。訳せば「サイバー兵器競争」だろうか。2010 年、イラン核開発施設への攻撃が発覚した Stuxnet の登場以降、サイバー攻撃の背後に国家の影が見え隠れする事例は多数存在している。また、われわれの身のまわりにあるさまざまなモノがネットに接続しスマート化しているが、一方では攻撃者に悪用される危険性もはらんでいる。そして、いつの時代になっても、不審なメールの添付ファイルをダブルクリックしてしまうような人間が一定数いることも確かだ。攻撃者が圧倒的に有利な現状でセキュリティについてどのように考えるか、ヒッポネン氏の見解が述べられるだろう。

一方、クロージングの基調講演はケネス・ギアス氏が担当する。長年にわたり米国政府内で活躍し、NATO サイバーセンターのアンバサダー（大使）も務めるなど、ギアス氏はさまざまな肩書きを持ち、国際情勢とサイバー空間に関する著作も上梓している。今回は「パワー、忍耐、粘り強さ：千尋のサイバー空間における大戦略」と題する講演で、サイバーセキュリティにおける国際協調体制の必要性などが映画「千と千尋の神隠し」になぞらえて解説される予定だ。

どちらも国家安全保障に関連する講演だが、現在の日本を取り巻く状況を考えればこのチョイス

にも納得がいく。国外に目を向ければ、米国・中国・ロシアといった大国間でサイバー諜報戦が繰り広げられ、一方では核開発の中止を迫られる北朝鮮の動向にも注目が集まる。さらに国内においては 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックが目前に迫り、物理・サイバー空間におけるセキュリティ脅威を懸念する声も高まっている。

グローバル世界の難題を克服するためには、海を越え国を超えて人々の英知を集める必要がある。そして、その場を提供することこそが CODE BLUE の目的なのである。

時代を反映する新トラックを増設 全講演 45 本！

昨年は特別トラックとして「サイバー犯罪対策トラック」が設けられたが、今年は新たに「ブロックチェーントラック」「法と政策トラック」の 2 つが加わった。「被害額が 1 億ドルを超えるビジネスメール詐欺の真相」「イーサリアムのスマートコントラクトに潜むぜい弱性」「GDPR（EU 一般データ保護規則）とビジネスチャンス」など、どのトラックでも旬なトピックには事欠かない。また、各トラックのタイムテーブルには、暗号通貨とサイバー犯罪や、暗号通貨に関する国家政策といったように複数の分野にまたがる講演も並ぶ。

一方、メイントラックでの講演は、技術色が濃い「テクニカル」とセキュリティ全般を扱う「ゼネラル」、そして後述する「U25」に分類され、2 日間で行なわれる講演の合計は 45 本となる。なお、メイントラックのチケットを購入した参加者は特別トラックを含めたすべての講演が聴講可能となっている。

U25 の優秀講演には奨学金授与も

U25 は文字どおり 25 歳以下の若手研究者を対象とした枠組みで、今回はイタリア・ロシア・中国から 3 本の研究が採択された。講演後には実行委員会とレビューボードによる審査が行なわれ、優秀な発表者には最大 250 万円の奨学金が授与されることとなっている。

篠田氏自身、大学進学で経済的に苦労した経験を持つ。また、セキュリティ業界で若者たちと接する中、経済的支援を必要とする学生を多数見てきたという。そうした中で自らができることを考え、趣旨に賛同する企業と共に奨学金設立にいたったのだそうだ。

前述の 3 本の研究は「ARM プラットフォームでの JavaScript を使った攻撃手法」「CPU のぜい弱性を応用した仮想環境の検出」「ワイヤレス環境で複数攻撃を組み合わせた Windows の攻略手法」といったもので、どれも新規性が高い。内容への興味もさることながら、奨学金の行方にも熱い眼差しが向けられることとなるだろう。

無料で楽しめる オープン・トラックとコンテスト

ベルサール新宿グランドの 1 階と 5 階が CODE BLUE の会場だ。メイントラック講演が行なわれる 1 階はいわゆる展示会の雰囲気だが、特別トラックが行なわれる 5 階へと移動するとその様相は一変する。

部屋の照明が落とされダンス音楽が流れるコンテストエリアは事前登録が必要なものの無料で入場することができる。ここでは、世界 69 ヶ国 760 チームによる厳しい予選を勝ち抜いた 10 組 51 名のハッカーたちがセキュリティ技術を競い合う CODE BLUE CTF が行なわれる。他にも自動車のハッキングに挑戦するコンテストや、イーサリアムのスマートコントラクトのぜい弱性を突き暗号通貨を盗み出すコンテストなどが行なわれる。

また、5 階で行なわれる「オープン・トラック」は誰もが聴講可能となっている。スポンサー企業による講演だが、宣伝を避けた中立的な方向をめざしているという。手前味噌で恐縮だが、弊社でも「安全な社会インフラセキュリティ　〜日本周辺の国際情勢〜」と題して講演を行なう。台湾でサイバー脅威の分析・研究を行なうリサーチャーをゲストに迎え、日本周辺の国際状勢を軸に未来志向の社会インフラセキュリティについて話をさせていただく予定だ。

本誌が注目する講演

トラック	タイトル	スピーカー
基調講演	Cyber Arms Race	ミッコ・ヒッポネン
基調講演	パワー、忍耐、粘り強さ：千尋のサイバー空間における大戦略	ケネス・ギアス
メイン・テクニカル	クラッシュから root へ： abort() を使用して iOS サンドボックスをエスケープする方法	ブランドン・アザド
メイン・テクニカル	The Mystery of WannaCry Mutants - 突然変異が引き起こす情報漏えいのメカニズムに迫る	岩村誠
メイン・ゼネラル	金融取引サービスにおけるセキュリティの欠陥	アレジャンドロ・ヘルナンデス
サイバー犯罪	Mirai のボットネット #14 - BestBuy と Deutsche Telekom が 台無しにした 2016 年の私の（他の多くの）クリスマス	ミルコ・マンスク
ブロックチェーン	（多分楽しくて）実益のあるスマートコントラクトのハニーポット	ベン・シュミット
法と政策	プライバシーバイデザインの手法： ソフトウェア開発のための GDPR 準拠への道	バネッサ・ヘンリ
オープントーク	安全な社会インフラセキュリティ　～日本周辺の国際情勢～	日立システムズ
オープントーク	IoT 製品のセキュリティ確保－メーカの視点から－	パナソニック

講演の概要、時間・会場などは公式サイトなどで各自で確認いただきたい（https://archive.codeblue.jp/2018/）
CODE BLUE の Facebook ページでは一部スピーカーのインタビューが掲載されている（https://www.facebook.com/codeblue.jp/）

ネットワーキングパーティは人財育成の一形態 !?

クロージングの基調講演を終えた後にはネットワーキングパーティが開催される。このパーティにはドアキーパーや誘導係などとして働いた学生スタッフも参加する。カンファレンスの懇親パーティといえば、スーツ姿の中年男性ばかりという印象を持つ人も多いかもしれないが、CODE BLUE では学生の参加により場が華やぐ。また、彼らが目を輝かせながら憧れの海外スピーカーと交流する場面などを見ていると、形は違えどこれも人財育成の 1 つなのだと思えてくる。

セキュリティカンファレンスとしての土台を固めつつ、これまで以上に遊びの要素を取り入れたのが CODE BLUE 2018 なのではなかろうか。今年も盛会となることを願う。

Human * IT

人と IT のチカラで、驚きと感動のサービスを。

Hitachi Systems Security Journal VOL.28

株式会社 日立システムズ
本社 〒141-8672 東京都品川区大崎 1-2-1